

関東ふれあいの道(茨城)⑨筑波山縦走のみち(2)

2021年10月18日池内淑皓

2021年5月31日(月)晴れ。前日水戸線岩瀬駅からバスで真壁宿に入って、真壁城跡と真壁城下町を散策した。真壁は江戸時代、一時浅野氏(忠臣蔵で有名な内匠頭の祖)が支配し、後笠間城に移った。

今日は前回歩いた「きのこ山」そばの上曽峠まで、宿の車で送迎して頂いた。

鬼が作林道を筑波山に向けて歩いて薬王院を訪ね、旧筑波鉄道酒寄駅跡のバス停から真壁宿に戻って宿泊する。



関東ふれあいの⑨筑波山縦走の道(2)道案内板 (首都圏自然歩道連絡協議会)



真壁→上曽峠→薬王院コース概念図



水戸線車窓から見た筑波山、田には早苗が青々と育っている



午後横浜を発って、16 時水戸線岩瀬駅に降り立つ



駅前から桜川市運営のバスに乗り、今宵の宿舎真壁宿に向かう

平安時代末期、承安 2 年(1172)大掾永幹が真壁郡に入って真壁氏を名乗り、築城した。
室町時代に入って応永 30 年(1423)足利持氏軍により陥落したが、その後室町幕府の混乱に乗じて再築した。
ここに戦国大名佐竹氏が常陸の国に台頭してくる。



慶長 7 年(1602)関ヶ原の戦いで、日和見を決め込んだ佐竹氏は家康により出羽の国に転封されると、
真壁氏も一緒に角館に移住し空城となったが、慶長 11 年(1606)北への抑えとして浅野長政が入城した。



元和元年(1622)浅野長政は北にある笠間城に移ると、真壁城は廃城となってしまふ。
城郭は取り壊され、現在は体育館となっている。石垣とわずかな堀が形見として残された。



城下町の形骸は現在でも残されており、伝統的構造物群保存地区となっている

真壁の町割りは、浅野長政と子長重によって完成された。（浅野氏は播州赤穂の忠臣蔵で有名）



ここ下宿通りには往古の匂いがかすかに残る。ここを領した嫡子長直は、正保 2 年(1645)播州赤穂へ転封となる



家老か重臣の屋敷か



建物は新しく建て替わっているが、乳鉾のつく門構えに家格の高さを感じさせる



酒屋もあった



江戸中期、近江商人がいち早く北関東に進出したと言う造り酒屋もある



真壁宿で最も名の知れた料亭「伊勢屋」 現在は旅館を営んでいる。今宵はここに投宿する

2021 年 5 月 31 日(月)晴れ。今日は筑波山麓をめぐる鬼が作林道を歩いて、薬王院に詣で、旧酒寄から帰るコース。朝一番、宿の人に上曾峠まで車で送って頂いた。何処に行っても地方の人達は人情深く親切だ



真壁から石岡方面に抜ける縦貫道路の交差点に、上曾峠はある



きのこ山から続く尾根上の林道は、この先鬼が作林道となり、県道の酒寄まで続く



道は細くなるが、そのぶん車も通らず、快適な林道歩きとなった



所どころ道標はきちんとあるから、迷うことはない



ここには猪も鹿も出るが、熊の記述はなかった



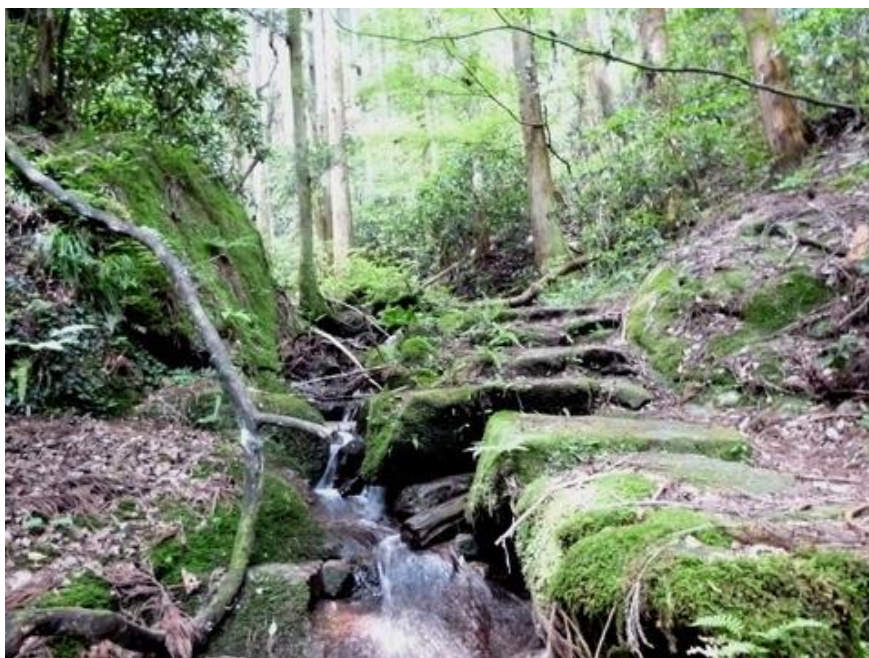
昔の旅人は、真壁宿からここを通り柿岡、石岡、土浦へ抜けたと言う



関東ふれあいの道は湯袋峠から、標高差にして 300m程麓に下る



そこから今度は谷筋を、筑波山麓を巡る鬼が作林道まで登り返す



苔むした沢道もなかなか素敵で、筑波山へ向かう古道の一つなのであろう



しっかり踏み固められた道となっている



苔の付いた石標もいいね！



林道に戻ると、つくば高原キャンプ場に出る。コロナの影響で閑散としていた。ここから筑波山への登山道がある



振り返ると、きのこ山と、加波山が見える



真壁宿遠望



関東ふれあいの道チェックポイントの一つ大石。この山域は良質の花崗岩が産出する、この石もとてつもなく大きい



今日は酒寄ミカン園には寄らず、直接薬王院に向かう。季節は5月でミカンには早い



薬王院山門



「薬王院」延元元年(782)西仏上人によって開基、1200年の歴史を有す 延宝8年(1680)再建 本尊:薬師如来像



三重塔と県指定天然記念物 “すだしい”(椎の木)の巨木。この辺りは椎の木の群生地となっている



参道にはさまざまな道標が並ぶ



大きな馬頭観音の石碑前を右折して里に下る



今日のゴールは筑波鉄道旧酒寄駅である。この土手はプラットホームで、道路が線路であった

[参考タイム] 真壁下宿(7:35)→上曾峠(7:50-7:55)→湯袋峠分岐(9:00-9:05)→つくば高原キャンプ場
(10:10-10:20)→薬王院への分岐(12:35-12:50 昼)→薬王院(13:20-13:30)→旧酒寄バス停
(14:10-14:31)→真壁(15:00)

この項完

「関東ふれあいの道(茨城)⑩筑波山頂めぐりのみち」に続く